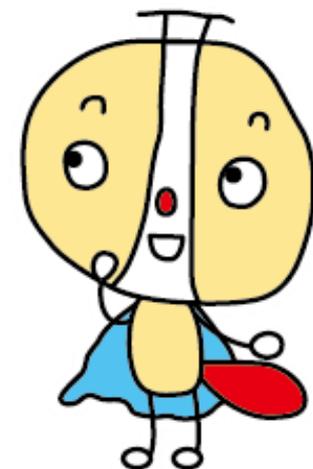


令和元年度西成区運営方針自己評価 【概要版】



スーパーボンボコジャガビー
にしなりくん

令和元年度 西成区運営方針

西成区の目標（何をめざすのか）

未来を担う子どもたちが健やかに育ち、だれもが笑顔にあふれ、安心安全に暮らすことができるまちの実現をめざす。

西成区の使命（どのような役割を担うのか）

地域住民等との連携・協働のもと、区長自らの権限・責任において、地域の実情や特性に即した施策や支援を行う。また、多様な区民の意見やニーズを把握し、区政への区民の参画など、地域と一体となって様々な施策を展開していく。

令和元年度 西成区運営の基本的な考え方（区長の方針）

西成区は、少子高齢化やあいりん地域などの様々な課題を抱えている。それらを解決するため「1 子どもに寄り添った支援と子育てしやすいと実感できるまち」、「2 活気にあふれ、誰もが歩きたくなる楽しいまち、豊かに自分らしく健康に生活できるまち」、「3 災害に強いまち、犯罪が起りにくく、安心安全に暮らせるまち」、「4 官と民が協働して取り組み、あいりん地域が抱える様々な課題を解決し、安心して暮らすことができるまち」に向けた施策や支援などに、引き続き重点的に取り組んでいく。特に西成特区構想については、これまでの成果を踏まえ、次のステップとして、にぎわい創出と再チャレンジ可能なまちの実現をめざした取り組みを推進する。また、区民にとって身近で親しみやすい区政運営を推進することにより、区民から信頼される区役所づくりをめざす。

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題	めざす成果及び戦略	具体的取組	区政会議 各部会
子どもが育つ環境 の充実	子どもの「育ち」を支援	プレーパーク事業	教育部会
		こども食堂支援事業	
	子どもの「学び」を支援	西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾)	
		基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール)	
		西成区こども生活・まなびサポート事業	
にぎわいと コミュニティが 生まれる まちづくり	地域資源を活かした新たなにぎわい づくりと活性化	地域密着型エリアリノベーションビジネス促進事業	西成特区構想部会
		西成区魅力発信事業	西成特区構想部会 情報発信部会
	地域活動の支援強化	地域コミュニティ支援事業	情報発信部会
		緑化推進事業	
	地域でのつながりづくり・福祉による まちづくり	西成版サービスハブ構築・運営事業	西成特区構想部会
		地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業	
		単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業	
	人権尊重のまちづくり	人権尊重のまちづくり	
防災・防犯 ・安全対策	コミュニティ防災力の強化	地域防災活動事業－地区防災計画作成を通じた地域防災力の向上－	情報発信部会
		地域防災活動事業－地域防災の担い手の発掘・育成－	
	防犯・安全対策の推進	防犯対策事業	
		自転車等安全利用啓発事業	
空家等対策の推進	空家等対策推進事業		
あいりん地域対策	あいりん地域環境対策	不法投棄対策	西成特区構想部会
		迷惑駐輪対策	
	あいりん地域を中心とした結核対策	結核健診の拡充による患者の早期発見・早期治療	
		結核患者の支援の充実	

経営課題1 子どもが育つ環境の充実

具体的取組1-1-1 プレーパーク事業

30予算額	21,919千円	元予算額	18,036千円
-------	----------	------	----------

目標	目標値	結果
プレーパークの一日あたりの利用者数	平均約120人以上	平均81人

未達成

取組実績

- ・令和元年7月6日～令和2年3月31日(83日間)の開催で6,754人が利用
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月22日～3月24日まで休園

課題と改善策

- ・委託契約更新協議不調により7月からの実施となったことによる周知の遅れや、猛暑、新型コロナウイルス感染症等の複合的な要因により利用者数の減少となった。
- ・従来のチラシ等での周知のほか、リーフレットの作成や出張プレーパークを行うなどの広報活動を行う。



パーク内生物調べ



たまり場の風景



タイヤプールの水遊び

経営課題1 子どもが育つ環境の充実

具体的取組1-1-2 こども食堂支援事業

30予算額

7,008千円

元予算額

6,858千円

目標	目標値	結果
こども食堂を区内で開設・運営	区内11小学校区に1ヶ所ずつ (計11ヶ所)	区内7小学校区 12ヶ所

未達成

取組実績

・西成区内7小学校区12ヶ所のこども食堂が行われており、中止に至った団体は0件。その内今年度事業補助5件が交付決定となった。

課題と改善策

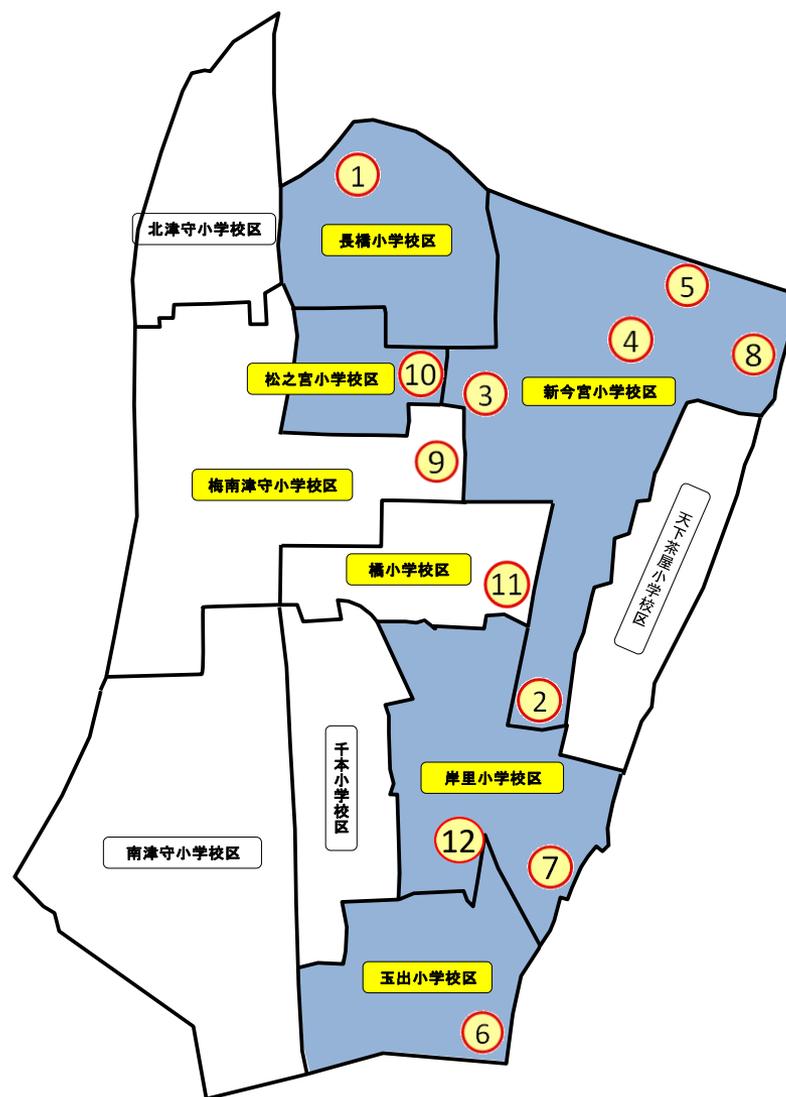
- ・地域ニーズには依然偏りがみられ、区内の北西部及び南西部はこども食堂の空白地帯となっている。
- ・こども食堂ネットワークとの連携を強め、開設に関する情報の共有及び積極的な働きかけを行い開設を目指す。

西成区内のこども食堂

- ① にしなり☆こども食堂
- ② すまいる食堂
- ③ こもれびカフェえほんとごはん
- ④ さとキッチン
- ⑤ はぎ食堂
- ⑥ 子どもの居場所まーる
- ⑦ まん中広場
- ⑧ 永信食堂
- ⑨ キッズ・ダイニング
- ⑩ みんな食堂ソレイユ
- ⑪ Tおむすび食堂
- ⑫ 歩みカフェ

※①～⑧・⑩・⑫は「こども食堂支援事業」の
令和元年度補助要件を満たす補助金交付団体です。

※①～⑫はすべて「こども食堂ネットワーク関西」と連携する
区内のこども食堂です。



経営課題1 子どもが育つ環境の充実

具体的取組1-2-1 西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾)

30予算額

276千円

元予算額

218千円

目標	目標値	結果
参加者へのアンケートで、基礎学力の向上及び学習習慣の定着を測る項目について肯定的な意見	70%以上	勉強の仕方がわかってきたと答えた生徒 74% 勉強時間が増えたと答えた生徒 75%

達成

取組実績

- ・対象は区内の中学生
- ・参加登録者数(令和2年3月末現在)
 - 鶴見橋中学校 4人
 - たちばな会館 20人
 - 玉出老人憩の家 38人 合計 62名



経営課題1 子どもが育つ環境の充実

具体的取組1-2-2 基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール)

30予算額

8,332千円

元予算額

8,332千円

目標	目標値	結果
授業初回と最終回に実力テストを実施し、得点がアップする児童の割合	70%以上	・テストを受検したうちの60%が成績上昇

未達成

取組実績

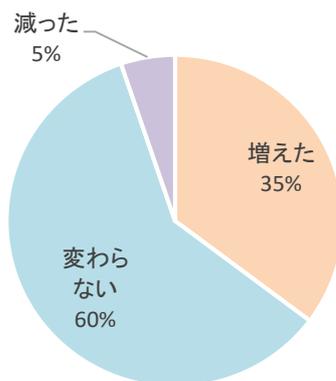
- ・区内小学3・4年生を対象に、区内小学校全11校で実施(夏休み期間、平日の放課後及び土曜日に実施)
- ・定員392名に対し252名が参加(参加率64.2%)
- ・5・6年対象事業は102名が参加

課題と改善策

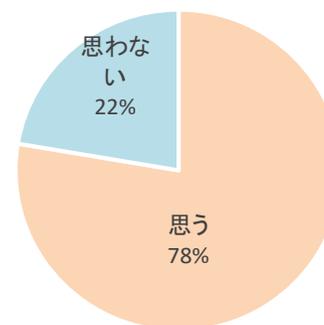
- ・参加者数は減少傾向だが、学校ごとの参加率の差は少なくなっている
- ・5・6年生のモデル実施を行ったが、2学期以降の募集で対応が困難な学校があった
- ・事業者と連携し、授業内容を検討の上、習熟度に応じた学力向上支援を行う

令和元年度児童アンケート結果

・ジャガピースクールに参加する前に比べて、家での勉強時間は増えましたか？



・このような機会があればまた参加したいですか？



**※約3割の児童が、「家での勉強時間が増えた」と答えており、学習習慣の定着がうかがえる。
※約8割の児童が、次年度以降の参加を希望しており、満足度は非常に高い。**

経営課題1 子どもが育つ環境の充実

具体的取組1-2-3 西成区こども生活・まなびサポート事業

30予算額

16,163千円

元予算額

27,806千円

目標	目標値	結果
支援対象となる児童生徒のうち、こども生活まなびサポーター等の働きかけにより、他の既存施策による支援(家庭児童相談による支援、課外学習支援など)を受けた割合	70%以上	既存施策を受けた割合 77.1%

達成

取組実績

- ・モデル実施校を拡充し(2中学校・6小学校)、こども生活・まなびサポーターを1名ずつ配置。またエリア管理者を区役所に1名配置し、教員をはじめとした関係機関と連携し、児童生徒の課題解決へ向けた効果的な活動を行った。
- ・要支援対象の児童生徒の状態を数値化するスクリーニングシートを作成し、月1回程度の意見交換会にて支援方針を決定することとした。
- ・支援方針を基にサポーター等が支援及び既存施策につなげるようにした。

経営課題1 子育て環境の充実 自己評価のまとめ

◇プレーパーク事業

7月からの実施になったことによる周知の遅れや、新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に比べ来場者数が減少になったが、事業が一定の効果を得られていることから、引き続きその内容の充実に取り組んでいく。

◇こども食堂支援事業

区内に12ヶ所のこども食堂が行われており、子どもの居場所としても利用されている。引き続き、区内各地域に広がるよう取り組んでいく。

◇西成まなび塾・西成ジャガピースクール

さらに参加者が増え、学習意欲が持続するよう工夫しながら実施する必要がある。

◇西成区こども生活・まなびサポート事業

実施した中学校区では、スクリーニングシートの作成や学校との意見交換会にて支援方針を決定することにより既存施策へつながりやすくなった。実施中学校区を全中学校区に拡充し、さらなる支援の充実を図っていく。

引き続き、子ども自身が課題や困難を乗り越える「生きる力」を育む居場所づくりや、子ども達の学習習慣の定着と学力向上に取り組むことで、子育て環境の充実を図っていく。